31

旧庄内藩の末裔の三医師

黒羽根洋司
庄内歴史懇談会 会員

【目的】

旧庄内藩藩士の末裔で日本医学界に多大なる功績を残す 3 人の医師について，その出自と事績について紹介する．

【方法と概要】

当地区の郷土史資料館所蔵の資料などの渉猟と，関係者の聴き取りにて得られた事実をもとにそれぞれの足跡を辿りまとめた．

〈杉村隆〉

1926（大正 15）年 4 月 20 日東京府に生まれ，2020（令和 2）年 9 月 6 日に 94 歳で没する．わが国の癌研究の第一人者であり，癌疾患の治療と啓蒙活動のリーダーとして活躍した．その功績により文化勲章を受け，国立がんセンターの第七代総長となり，その後には東邦大学学長を 6 年間務めた．

庄内にルーツを持つ杉村隆氏の系譜を手短に述べる．庄内との縁は，最初に仕えた加藤清正の長男，忠廣が庄内藩にお預けとなり，その随身として熊本からやって来た時から始まる．2 代目まで 62 年間は加藤家に出仕して忠勤に励むが，その才をかわれ庄内藩酒井家に召し抱えられる．加増を重ね八代目の兵右衛門は高 280 石の家督を継ぎ，大目付の要職を得る．時代は慶応年間，幕府の有力な藩屏であった庄内は討幕勢力との戦いに備えて，公武合体派の一掃を計る．杉村兵右衛門は丁卯の大獄，首謀者の名をもって「大山庄太夫一件」とも呼ばれる大粛清の取り調べと断罪の任にあたる．なお，その時に斬首された大山庄太夫は私の高祖父の兄である．杉村隆は兵右衛門から 3 代下った杉村家の正嫡である．

父幹も含め，怪談作家や洋画家など個性的な人びとを輩出した杉村の家風を受け継いだか，隆の気質も来歴も一風変わっている．いずれにせよ，1949（昭和 24）年東大医学部を卒業し，あとは癌研究ひとすじであった．1987（昭和 62）年には鶴岡市名誉市民に推戴された．

〈萬年甫（はじめ），徹〉

日本の解剖学，とりわけ脳・神経解剖の先駆者，萬年甫と神経内科学の泰斗，徹の兄弟も旧庄内藩藩士の裔である．1863（文久 3）年からの萬年家法名帖が現存するが，それ以前を記した資料は未だ乏しい．ただ萬年兄弟の祖父，正一は鶴岡近郊の大山という地で警察官を勤めている．明治維新で俸禄を失った士族たちには，警察官になる者が多かったことから，その祖は藩士であったことは間違いない．ちなみに，あの石原莞爾の父も庄内藩士の出で，明治新政府以降は警察官を勤めた．

兄弟たちの父，虎雄は荘内中学（現・県立鶴岡南高校）の 17 回卒，陸軍軍医委託生として東北医専（現・東北大学医学部）に入学，卒後，軍医となって各地に赴任する．したがって兄甫は 1923（大正 12）年 5 月 23 日に千葉の市川市で，7 歳年下の弟徹は 1930（昭和 5）年 9 月 15 日，父が除隊後に開業した東京の中目黒で生まれている．

甫は東京帝国大学医学部卒業後，沖中内科を希望するが，入局希望者が多いことと学生の時に患った胸膜炎を理由に断念する．学生時代から興味があった母校の脳研施設の解剖学部門を選び，生涯の師，小川鼎三の門をたたく．優れた研究者であると同時に，偉大な教育者でもあった萬年甫は，東京医科歯科大学などで教鞭をとり，数多くの弟子を育てた．

関東大震災の年に生まれた甫は，奇しくも東日本大震災の年の 2011（平成 23）年 12 月 27 日に鬼籍に入った．88 歳であった．

弟，徹は東大脳研神経内科の教授を務め，兄とは別の臨床の立場で，脳神経疾患の治療にあたった．1976（昭和 51）年のロッキード事件の折には，医師団の一人として国会から証人喚問要請を受けた児玉誉士夫の健康状態を診断した．当時，講師であった徹は軽い失語症と診断した．退官後は三井記念病院の院長を務めた．

【結論】

旧庄内藩士を祖とする三人の優れた医学者の系譜をたどるとともに，それぞれの業績の大きさを評価することができた．